



「日韓交流おまつり 2023 in Seoul」で日本の地域の魅力を発信！

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 糸原 叶恵 (島根県派遣)

2005年、日韓国交正常化40年「日韓友情年」を機に始まった「日韓交流おまつり」は、今年で19回目を迎えました。日韓最大の草の根交流イベントとして、日韓両国のさらなる友好の増進を目的に多くの団体が参加し、伝統舞踊や両国の文化を体験できるブース、地域の観光や特産品をPRするブースなどが出展し、会場をおおいに盛り上げました。

日韓最大の草の根交流イベント

今年の日韓交流おまつりは「共に描く未来」をテーマに、2023年10月22日にソウル特別市内のCOEXで開催されました。年齢性別問わず日本に関心を持つ多くの方が来場され、会場は熱気に包みこまれました。

午前11時から公式行事が始まり、日韓公演として「日韓少年少女合唱団」(ソウル特別市少年少女合唱団とソウル日本人学校合唱団)の子どもたちが日本、韓国それぞれの楽曲を披露し、最後に合同曲を歌唱しました。会場は子どもたちの美しい歌声に包まれながら幕を開けました。



日韓少年少女合唱団公演の様子

開会式では、堀井巖外務副大臣、河村建夫日韓親善協会中央会会長が祝辞を述べられました。その後、メインステージで2022年にユネスコ無形文化遺産に登録された日本の岩崎鬼剣舞保存会と韓国の鳳山タルチュム保

存会がコラボレーションし、日韓伝統仮面踊りが披露されました。



岩崎鬼剣舞と鳳山タルチュムのコラボ

午後からは日韓伝統公演をはじめ、岩崎鬼剣舞や鳳山タルチュムの単独公演や、劇団静岡県史による「徳川家康公と朝鮮通信使」の演劇を日韓交流おまつりバージョンで披露するなど日韓の歴史ある舞台公演となりました。

その後は、今や日本文化ともいえるコスプレ公演やK-POP、J-POPなどの公演が続き、ステージを彩りました。

一方、各ブースでは企業や地方自治体のほか、着物や浴衣の試着、日韓両国の伝統遊びなどを体験できるブースが出展し、来場者は着物や浴衣、韓服を着ての写真撮影などを楽しみました。また、日本からは北海道、青森県、秋田県、岩手県、宮城県、福島県人会、新潟県、茨城県、静岡県、滋賀県、鳥取県、島根県、愛媛県、福岡県、長崎県、沖縄県、北九州市の計17の自治体および関係機関が出展し、自治体PRはもちろん、民芸品製作体験や日本酒の試飲、クイズイベントやお楽しみ抽選会など、多種多様なイベントを実施してPR合戦を繰り広げました。

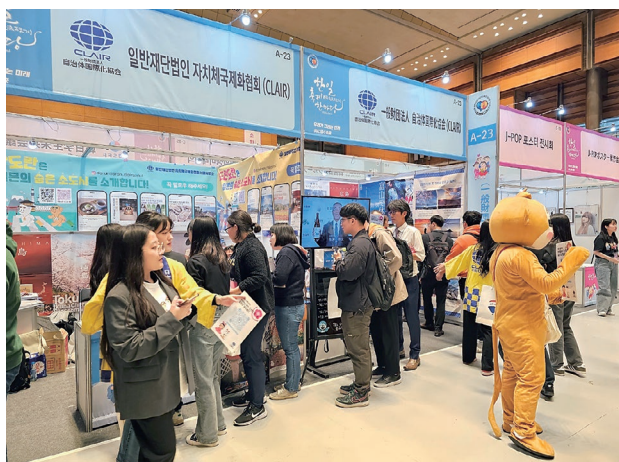
クレアソウル事務所も自治体をPR

クレアソウル事務所のブースでは、韓国の方々に、日本の自治体に関心を持っていただくきっかけとなるよう、パンフレットやポスター、PR映像を使った広報の



ほか、日本の特産品が当たる抽選イベントを行い、日本全国の自治体 PR を展開しました。

また、47 都道府県のホームページや SNS などの情報を集約し、二次元コード化したチラシを設置し、パンフレットの情報だけでなく、各自治体の SNS を活用した情報発信の PR にも努めました。さらに参加者がより楽しく、日本の自治体の情報に接することができるようクイズイベントも行いました。家族で参加される方や実際に出張している自治体のブースへ行き、回答を探す様子なども見受けられ、世代を問わず日本の自治体について関心を持っていただく良いきっかけづくりとなりました。



クレアソウル事務所ブースでの抽選イベントの様子

JET 経験者がつなぐ日韓の地域間交流

日本の自治体や学校などにおいて外国語指導や国際交流業務で活躍する海外の青年を受け入れる「JET プログラム」には、韓国からも多くの方々が参加しています。

今回のおまつりでは、JET 経験者で構成されている団体である「JETAA 大韓民国支部」がブースを出展し、JET プログラムの紹介などを行いました。活動写真が掲載されたパネル展示や自身の日本での業務や日常生活に関する体験談を交えながら来場者に JET プログラムや日本の魅力を発信しました。

ブースを訪れた方からは、JET の業務内容や受験に向けた対策の仕方、日本での生活のコツなどに関する質問が多数寄せられており、真剣な表情で JET 経験者の説明に耳を傾けている様子がうかがえました。

JET プログラムは、まさに韓国を含む海外と日本との地域間交流の懸け橋。日韓交流おまつりは、そんな JET

プログラムの役割について、韓国の多くの方々に知っていただく貴重な機会となりました。



JETAA の活動内容

共に描く未来

午後6時30分。ステージの出演陣のみならず一般の観覧客をも巻き込んだ舞踊パフォーマンスが圧巻のフィナーレを飾り、今年の日韓交流おまつりは幕を下ろしました。会場が一体となったフィナーレは、まさに本イベントのテーマでもある「共に描く未来」にふさわしいものとなりました。

今回出展いただいた日本の自治体担当者からは、「ブースにも多くの方に来ていただき、自治体を知っていただく良い機会となった」「今年も多くの人に来ていただき大盛況であった」などの感想が寄せられました。

日韓の地域間交流がこれからも深く根付いていくために、この日韓交流おまつりに留まらず、息の長い交流を継続していくことが必要です。クレアソウル事務所では、本イベントを一つのきっかけと捉え、今後もさまざまな事業を通して日本自治体の魅力発信と日韓の地域間交流をサポートする取り組みを推進して参ります。

日本の自治体の皆さん、来年は是非、日韓交流おまつりにブース出展してみませんか？

○「日韓交流おまつり in Seoul」ホームページ

<https://omatsuri.kr/?lang=jp>



フィナーレの様子